

研究・社会共創・イノベーション戦略

独自性を重視し、知的活動や想像力によって真理を探究する基礎科学研究、そして、地域社会と共創した応用科学研究を遂行し、社会貢献へとつなげていきます。

TOPIC

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）において取り組む以下①～④をデジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク発展の基盤とし、神戸大学全体をグローバル・イノベーション・キャンパスへと変革することを目指しています。

- ①世界に伍するバイオものづくり共創研究拠点
- ②DX・自動化研究環境の全学展開
- ③グローバル・イノベーション創出機能の強化
- ④地域産業のグローバル展開

卓越した研究力の強化

1. 世界トップクラスの卓越した研究成果の創出
傑出した研究成果を共創する知の集積
2. 地域から地球規模に至る社会課題の解決
異分野共創による新領域研究の創出
：SDGs、カーボンニュートラル
3. 異分野共創研究により未来社会に向けた新たな課題を解決
4. 学術研究からイノベーション成果の社会実装までの環境整備、組織的に共創推進
5. 国際的なプレゼンスを有す優秀な若手研究者を育成

2030

傑出した研究成果の創出

海外との連携・共創を高い次元で推進し世界を牽引する開かれた異分野共創型卓越研究拠点となる大学を目指して

P.56

国際頭脳循環の活性による海外との共創の促進

国際的に優れた若手教員確保

産官学連携の推進

基礎研究から社会実装へ

P.62

イノベーションデザインとグローバル・イノベーション・カタパルトによる社会実装の加速

アントレプレナーシップのDNA育成のための仕組みづくり

各研究科における戦略的な研究の取組

P.68

特色ある研究系全学センターの取組

P.84

先端的異分野共創研究の推進

P.98

全学の研究組織体制について

知と人を創る 異分野共創 研究教育 グローバル拠点

- 研究シーズの”見える化”
- 若手研究者雇用促進
- 国内外の優秀な研究者獲得

近隣の世界有数の科学インフラの活用

- 富岳
- SPring-8
- E-ディフェンス

学術研究

- 世界トップクラスの卓越した研究成果の創出
- 傑出した研究成果を共創する知の集積
- 国際的なプレゼンスを有す優秀な若手研究者を育成

国内外大学・研究機関や産業界、地域社会との連携促進

- 兵庫県・神戸市
- 産業界
- 金融機関
- 他大学・研究機関

- 博士後期課程研究 専念型フェロースhip
- クオアポ等雇用制度整備
- 博士人材育成プログラム
- 大学発ベンチャー起業支援
- 産業界等との共同・受託研究への若手研究者の参画

学内の研究支援・推進
URAによる研究支援
異分野共創研究支援

学術・社会共創機構

- 学術基盤部門
- 共創事業部門
- 異分野共創研究 企画・創出委員会

学内共同基盤の整備

学内共同管理・支援組織

多様な研究領域

人文・人間科学系研究科	社会科学系研究科
自然科学系研究科	生命・医学系研究科

学内共同教育研究推進組織

社会実装

- 学術研究からイノベーション成果の社会実装までの環境整備、組織的に共創推進

企業との共同研究推進
起業支援・出資
知財戦略推進

学術・社会共創機構
社会共創部門

KUI社

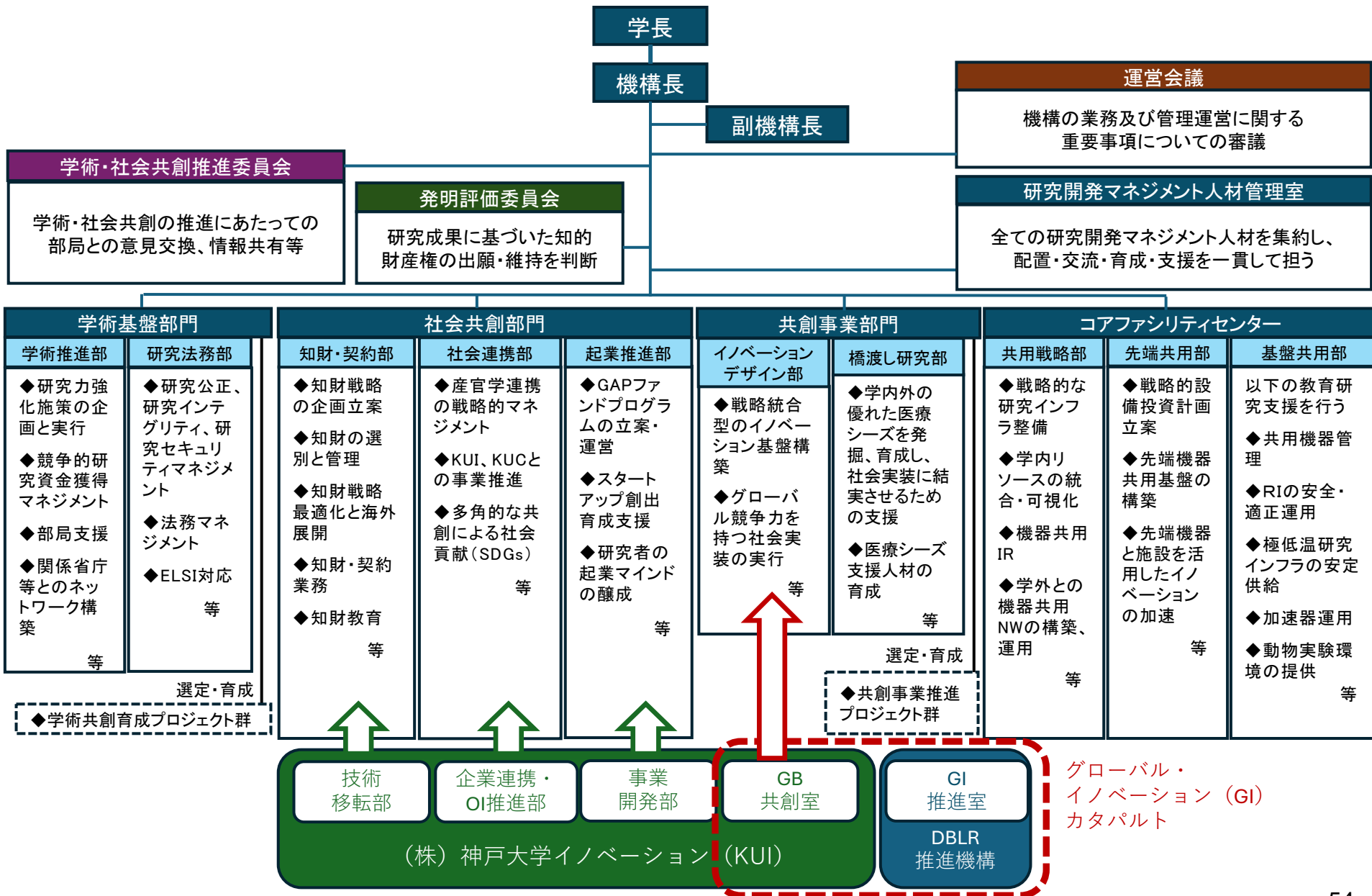
神戸大学ファンド

異分野共創新領域研究

- 地域から地球規模に至る社会課題の解決
- 異分野共創による新領域研究の創出
：SDGs、カーボンニュートラル

クオアポ教員：120人(延べ)	Top10%論文：1,200報(累計)	SDGs関連プログラム：16件(第4期終了時)	共同・受託研究数：1,700件(第4期終了時)
科研費採択件数/研究者：3.6件(累計)	国際共著論文：5,000報(累計)		共同・受託研究費：60億円(第4期終了時)
科研費獲得額/研究者：750万円(累計)	Web of Science収録論文：14,000報(累計)		大学発ベンチャー新規起業：30社(累計)
博士学生研究専念型フェロースhip：110人(平均)	若手研究者共同・受託研究参画件数：250件(第4期終了時)		企業共著論文数：550報(累計)
若手教員比率：24%(第4期終了時)			外部資金：160億円(第4期終了時)

学術・社会共創機構について



基盤となる分析機器を学内外の多くの研究者へ

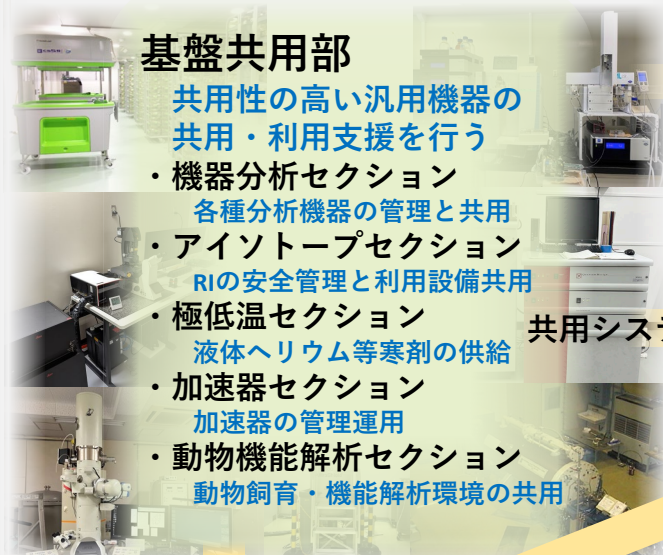


～コアファシリティセンター～

目的

- 各種分析機器の管理と共用による教育研究支援を行い、幅広い基礎研究基盤の充実および先端的な応用研究の進展に資する
- 全学の機器の更なる活用を目指したコアファシリティの戦略的強化
- インキュベーション施設と高度研究機器を連動させた戦略的な共用の強化

コアファシリティセンター



基盤共用部

共用性の高い汎用機器の
共用・利用支援を行う

- 機器分析セクション
各種分析機器の管理と共用
- アイソトープセクション
RIの安全管理と利用設備共用
- 極低温セクション
液体ヘリウム等寒剤の供給
- 加速器セクション
加速器の管理運用
- 動物機能解析セクション
動物飼育・機能解析環境の共用

共用システム構築

購入機器最適化

共用システム構築

機器・設備登録

共用戦略部

学内外での機器共同利用推進
共用システム管理

- 機器管理者育成
(ピアレビュー)
- シンポジウム開催
(若手フロンティア)

管理・運用
他教育研究機関・
民間企業との調整



機器・設備登録

機器・設備提供
利用指導

機器・設備利用

機器・設備利用

先端共用部

共用性の高い先端機器の
共用・利用支援を行う

- 先端バイオセクション
- 先端医工学セクション
- 先端工学セクション

連携

学内インキュベーション施設

所有機器登録



学内研究者

- 各専攻
 - 各専攻内研究センター
 - 大学内研究センター
- 教員・研究員・大学院生
学生 etc...



外部機関

- 全国の教育・研究機関
 - 民間企業
 - 公的研究所
- 開発部門・分析センター
共同プロジェクト etc...

研究成果
• 学術論文
• 新製品

傑出した研究成果の創出

海外との連携・共創を高い次元で推進し世界を牽引する開かれた異分野共創型卓越研究拠点となる大学を目指して

目的

- 高水準の国際共同研究の促進
- 海外の優秀な研究者・学生の集結

目標

- 国際共著論文の増加
- 世界大学ランキングの向上

方策

国際相互連携システムの創成

国際頭脳循環の活性

- 博士課程学生の海外派遣
- 若手教員長期海外派遣
- 外国人研究者受入
- 海外拠点を活用した学術交流拡充

国際共同研究の活性

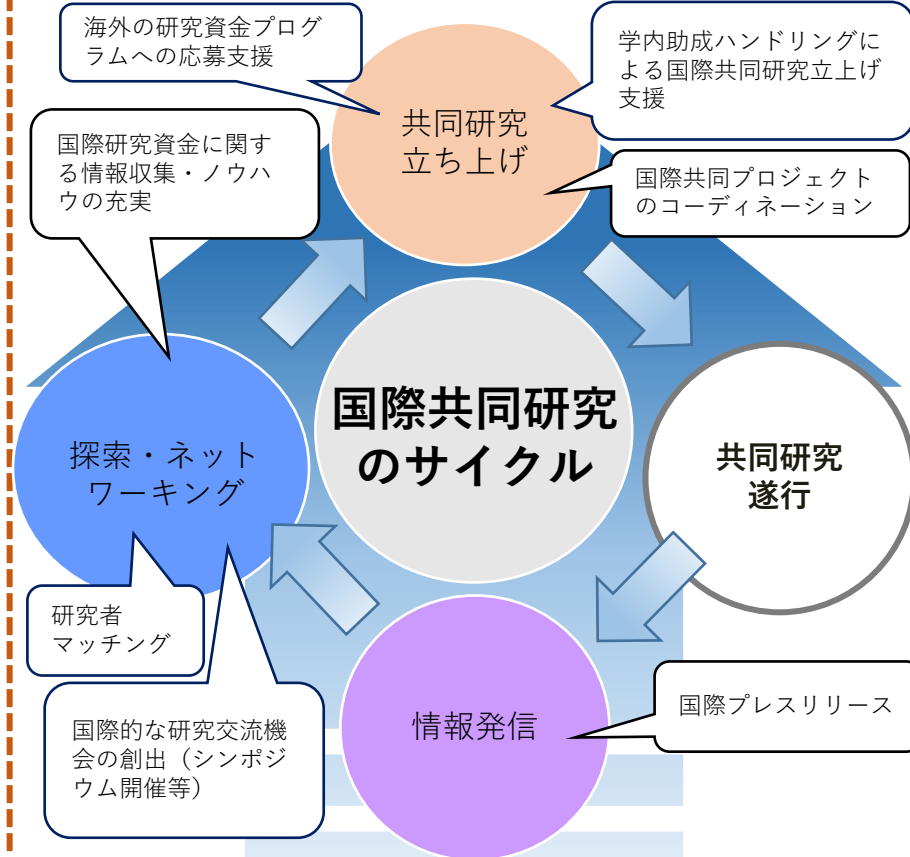
- 強みのある研究領域の国際研究ネットワーク強化
- 個々人の国際共同研究の活性化
- 外部資金の獲得による国際共同研究の活性化

国際的認知度向上

- 研究成果の国際情報発信の強化
- 国際会議の開催

国際相互連携システムの創成に向けた具体例

URAが連携する国際相互交流・海外共同研究モデルの創出
(国内・海外のURA同士による研究資金プログラムの情報共有、意見交換および獲得に向けた支援)



海外のリサーチマネージャーとの関係強化

博士課程学生の海外派遣

【概要】

博士研究者人材育成強化の一環として、博士課程在籍中の学生に研究者としての資質向上の機会を与えるため、海外留学費用を支援し、留学先で博士論文に関連する研究を行うとともに、英語力・異分野理解向上、留学先での人的交流の深化を図る。



神戸大学の博士課程学生



海外協定大学等

博士論文の質の向上



若手研究者への支援

【概要】

若手研究者に対する各種支援策を実施

若手教員長期海外派遣事業

若手教員の海外派遣を推進し、次世代の中核を担う国際的に活躍できる若手研究者の育成・本学の国際交流の活性化を図る

各学系から計6名を派遣予定

前之園記念若手優秀論文賞

英文雑誌に掲載された優れた論文の筆頭著者となった若手研究者に対して、敬愛まちづくり財団の支援を受け賞金を授与

海外拠点を活用した学術交流拡充

【概要】

海外拠点において、国際シンポジウム等を開催し、本学の国際的プレゼンスの向上を図るとともに、**海外の研究者と学術的交流を深め、共同研究ネットワークを拡大し、国際共同研究につながる協力関係を構築**する。



国際共同研究の強化

【概要】

国際共同研究を活性化し、国際共著論文に対する学内の意識改革を図るため、次の3型から成る**国際共同研究強化事業**を実施。

A型	国際共著論文 インセンティブ型	国際共著論文実績に基づき各部局に予算を配分
B型	国際共同研究 育成型	戦略的に経費を投じて国際共同研究を強化し、優れた 国際共同研究プロジェクトの創出・発展 を目指す学内公募事業
C型	国際共同 研究創出型	外国人研究員を雇用または招へい し研究に参画させることで、国際共同研究プロジェクトの創出を目指す学内公募事業

戦略的な国際学術交流協定の活用・促進による 強みのある研究領域の国際研究ネットワークの構築

締結協定の戦略的活用

既存協定の 検証

- ① 個から発展した協定を大学での組織でさらに連携をとることで有効に活用
- ② トップ会談等で締結した合意のみ行っている協定の実質化、将来的に交流が見込めない協定の見直し
- ③ 重点協定校設置の検討

新規締結時：世界ランキング、締結大学の規模、教育研究レベルや組織形態等、総合的に精査
更新時：共同研究の推進や研究者・学生の受入れ・派遣増加の可能性の観点等から精査

国際共同研究の推進、教員・学生交流の活性化、協定校とのネットワークの有効利用

交流実績、共著論文数の把握 → さらなる国際共同研究の推進を図るための調査・分析

海外協定校数
392校（2025年）

ヨーロッパ：150校
アフリカ：6校

アジア：179校
オセアニア：12校
中東：7校

北米：30校
中南米：8校

下線は海外協定校以外

強みのある領域のネットワーク

社会システムイノベーション研究

- ・復旦大学（中国）
- ・南開大学（中国）
- ・貿易大学（ベトナム）
- ・清華大学（中国）
- ・北京大学（中国）
- ・南カリフォルニア大学（アメリカ）

学際日本研究

- ・オックスフォード大学（イギリス）
- ・ヴェネツィア大学（イタリア）
- ・ハンブルク大学（ドイツ）
- ・トリア大学（ドイツ）
- ・エトヴェシュ・ロラード大学（ハンガリー）
- ・ヤゲウォ大学（ポーランド）
- ・パリ第10(ナンテール)大学（フランス）
- ・復旦大学（中国）
- ・北京大学（中国）
- ・北京外国語大学（中国）
- ・韓国海洋大学校（韓国）
- ・中国文化大学（台湾）

新興・再興感染症研究

- ・インドネシア大学（インドネシア）
- ・ガジャマダ大学（インドネシア）
- ・アイルランガ大学（インドネシア）
- ・マヒドン大学（タイ）
- ・チェンマイ大学（タイ）

数理・データサイエンス研究

- ・グルノーブル・アルプ大学（フランス）
- ・南洋理工大（シンガポール）
- ・香港理工大（中国）
- ・リュブリャナ大学（スロベニア）
- ・ニューブランズウィック大学（カナダ）

バイオプロダクション研究

- ・インドネシア科学院（インドネシア）
- ・清華大学（中国）
- ・上海交通大学（中国）
- ・中国科学院大学（中国）
- ・国立成功大学（台湾）
- ・シンガポール国立大学（シンガポール）
- ・テキサス大学オースティン校（アメリカ）
- ・イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（アメリカ）
- ・西ケープ大学（南アフリカ）

メディカルトランスフォーメーション研究

- ・ワシントン大学（アメリカ）
- ・オスロ大学（ノルウェー）
- ・トロント大学（カナダ）
- ・アイルランガ大学（インドネシア）

先端膜研究

- ・シドニー工科大学（オーストラリア）
- ・ビクトリア大学（オーストラリア）
- ・浙江大学（中国）
- ・香港科技大学（中国）
- ・南京工業大学（中国）
- ・清華大学（中国）
- ・天津工業大学（中国）
- ・漢陽大（韓国）
- ・中原大学（台湾）
- ・国立台湾科技大学（台湾）
- ・マレーシア工科大学（マレーシア）
- ・バンドン工科大学（インドネシア）
- ・Institut Européen des Membranes（フランス）
- ・アーカンソー大学（アメリカ）

未来都市研究

- ・カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）
- ・カリフォルニア大学バークレー校（アメリカ）
- ・カリフォルニア大学PEER（アメリカ）
- ・ガジャマダ大学（インドネシア）
- ・バンドン工科大学（インドネシア）
- ・ノルウェー地盤工学研究所（ノルウェー）
- ・SKB（スウェーデン）

スパコンを用いた先端研究

- ・南カリフォルニア大学（アメリカ）
- ・カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）
- ・オスロ大学（ノルウェー）
- ・ライデン大学（オランダ）
- ・中山大（中国）

海洋底探査研究

- ・コート・ダジュール大学（フランス）
- ・プリンストン大学（アメリカ）
- ・南方科技大学（中国）
- ・アバディーン大学（イギリス）

国際的に優れた若手教員確保の取組み

～高等学術研究院～



- 学長の主導の下に本学の特色及び強みを活かして、国際的に卓越した学術研究を推進するとともに、本学の研究力の一層の向上に資する
- 本学の学術研究の推進を先導する国際的に卓越した研究者及び国際的に優れた若手教員を「高等学術研究院教員」として選定し、学長が決定
- 研究院教員は国際的に優れた若手研究者を対象とした「卓越准教授・教授」、研究キャリアのスタートを支援する「テニュアトラック教員」、本学の博士後期課程修了者を対象とした「若手夢実現支援制度～Bridging the gap～」、世界トップクラスの優れた研究業績を有する「特別招聘教授」「特別栄誉教授」で構成

本学の学術研究の推進に資する国際的に優れた若手の助教・講師・准教授を准教授または教授に昇任させる



- 教育・研究に専念させ（部局運営業務は原則免除）、一層の研究成果創出を促す
- 今後も引き続き本学において研究を行うインセンティブとする
- 第4期中期計画K P I等の向上

令和7年度採択者（5名）

卓越教授・
准教授

国際的に
優れた
若手研究者



科学技術イノベーション研究科
三木 拓司
准教授→卓越教授



医学系研究科
坂東 弘教
助教→卓越准教授



先端バイオ工学研究科センター
田中 謙也
講師→卓越准教授



農学研究科
京極 博久
助教→卓越准教授



国際文化学研究科
衣笠 太郎
講師→卓越准教授

累計採択者数 19名（うち、卓越教授 6名、卓越准教授 13名）

テニュア
トラック教員

デジタルバイオ&ライフサイエンスリサーチパーク構想の5拠点において、各拠点の取組に資する優秀な若手が恵まれた環境で研究者としてキャリアをスタート

若手夢実現
支援制度

本学の博士後期課程修了後の優秀な若手研究者（ポスドク）を対象とし、学内公募により毎年度4名程度を選考、特命助教（養成枠）として採用・育成する制度

国際的に
卓越した
研究者

特別招聘教授

国際的に卓越した研究業績を有する国内外の研究者でクロスアポイントメントにより教授または特命教授として本学に受け入れている教授

特別栄誉教授

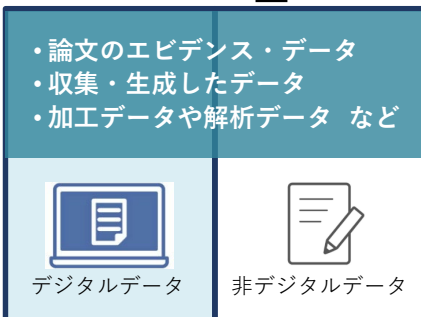
本学を教授として退職した者または本学の学士課程の卒業生若しくは大学院修了生であって国際的に顕著に卓越した業績等を有する者のうち、ノーベル賞等の著名な賞の受賞者

AI活用により独創的・先導的な研究を創出する研究基盤の確立

- 【目的】** 研究データ管理・活用エコシステムを構築し、集積した研究データを対象にAIを活用することで、研究開発動向の把握、今後の研究予測、異分野の研究データの包括的な分析による新たな発見などにより、これまでにない独創的・先導的な研究を継続的に創出する研究基盤の確立を目指す。
- 【効果】** 研究データの活用により設備や実験の不足を補い、AIの活用により研究を加速することで、独創的なアイデアの創出により集中できる。



多様な研究データ



1. ガイドラインに基づく適切な管理・公開の推進

学術系列レベルでガイドラインを策定し、その内容について教員・学生への理解と周知を徹底する。



2. 次世代データ管理基盤確立

- デジタルデータの管理においては、国立情報学研究所（NII）との連携を一層深化

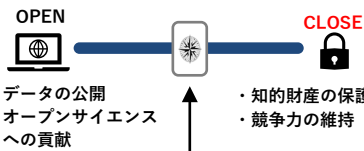
- NIIの研究データ管理サービス GakuNin RDM を積極的に活用



3. データ管理・活用エコシステムの構築

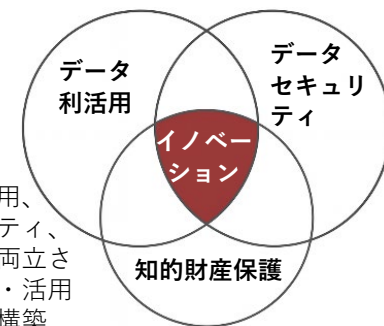
- 研究基盤整備により研究データの信頼性を飛躍的に高める枠組みを構築。
- 研究者の研究設備へのアクセスを確保し、高品質な研究データの集積を加速する。

オープン・アンド・クローズ戦略により、研究価値の最大化を図る。



- 単なる公開ではない戦略的な使い分け
- データの公開と知的財産の一体的活用

研究データ利活用、データセキュリティ、知的財産保護を両立させたデータ管理・活用エコシステムを構築



産官学連携の推進

基礎研究から社会実装へ

大学運営資金としての環流

間接経費

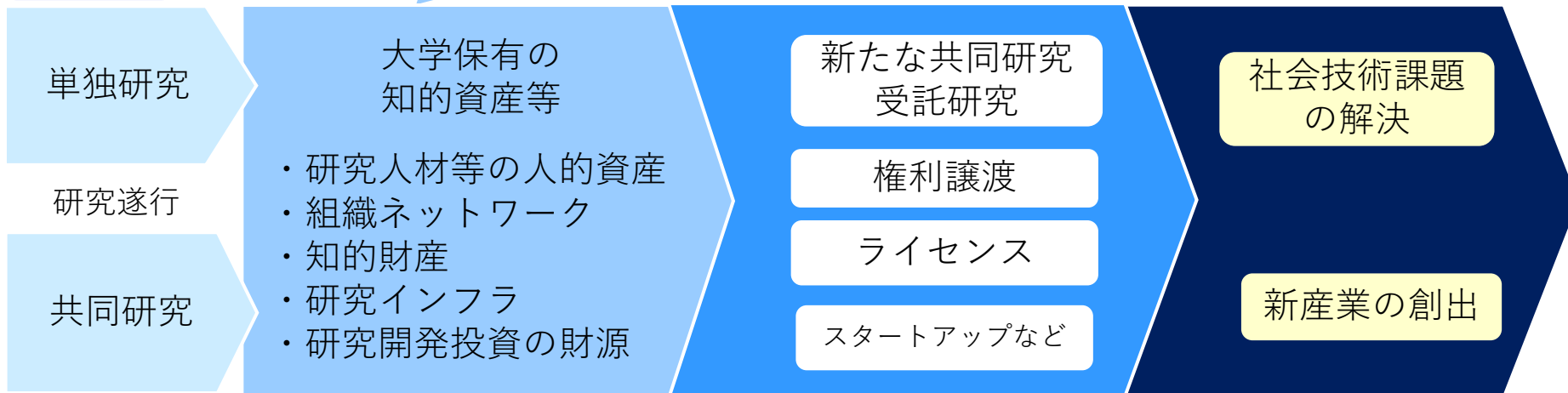
科研費
共同研究
受託研究
JST
NEDO
AMEDなど

戦略的かつ強力な
知財戦略

自立化

断続的な
イノベーションの
創出

さらなる知的財産の蓄積を通じた大学の成長



基礎研究→応用研究

産官学金連携

社会貢献

学術推進部

社会連携部

知財・契約部

起業推進部



起業推進部



アントレプレナーシップ教育

起業人材の育成

経営人材の育成

イノベーションデザインとグローバル・イノベーション・カタパルトによる社会実装の加速



イノベーションデザイン

研究成果をどう社会に届けるかを最初から設計、社会課題から研究領域をバックキャスト、知の設計、強力な研究戦略・知財戦略・事業戦略により大学発の社会実装を加速

グローバル・イノベーション・カタパルト

イノベーションデザインに基づき神戸大学の知を社会実装と国際展開へ射出する実行基盤、有力な研究成果を重点支援

グローバル・イノベーション・カタパルト
-GI推進室とGB共創室からなるチーム-

GI推進室 (学内)



GB共創室 (KUI)

- 社会課題、ビジネス動向、技術シーズの俯瞰的な調査
- 知財研究戦略の立案
- 卓越したコア研究の把握および知財化の推進
- 研究プロジェクトの立ち上げおよび事業化POCの実行
- グローバルスタートアップの創出および起業支援

既存の研究開発

起点

研究

知財取得

社会課題とのマッチ

事業戦略

社会実装

社会課題の解決

・低い社会実装率が問題、研究が社会に届かない

・なんとか上市、国際展開は念頭がない

イノベーションデザイン

起点

研究

コア研究

社会課題

研究立案

研究戦略

知財戦略

事業戦略

社会課題との
真のマッチ

社会実装

社会課題の解決

・国際展開が前提、十分な投資が可能

- 大学研究の新規生からスタートアップ設立が有力な候補
- 既存企業への技術移転
- 大企業とのJVなど

バックキャスト

研究、知財、事業の一体的な戦略策定

特許戦略

グローバルイノベーションカタパルトにおいて特許戦略は社会実装と国際展開を成立させる中核要素

特許の強さは、単なる出願件数ではなく、用途・市場・国際展開、さらには臨床応用や規制対応を見据えた広く強固なクレームと戦略的な特許ポートフォリオの構築によって決まる

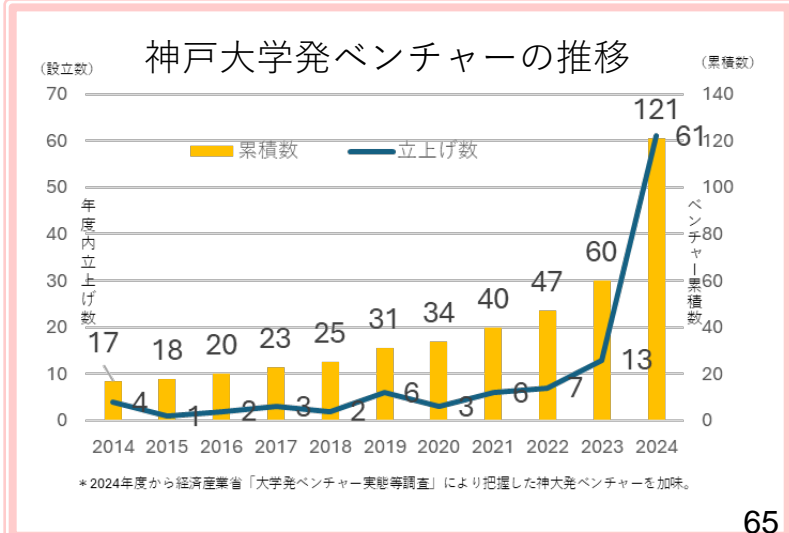
産官学連携とイノベーション創出

基礎研究から生まれた研究シーズの社会実装を推進すべく、産官学連携を通じたヒト・モノ・カネ・コトの支援を实践

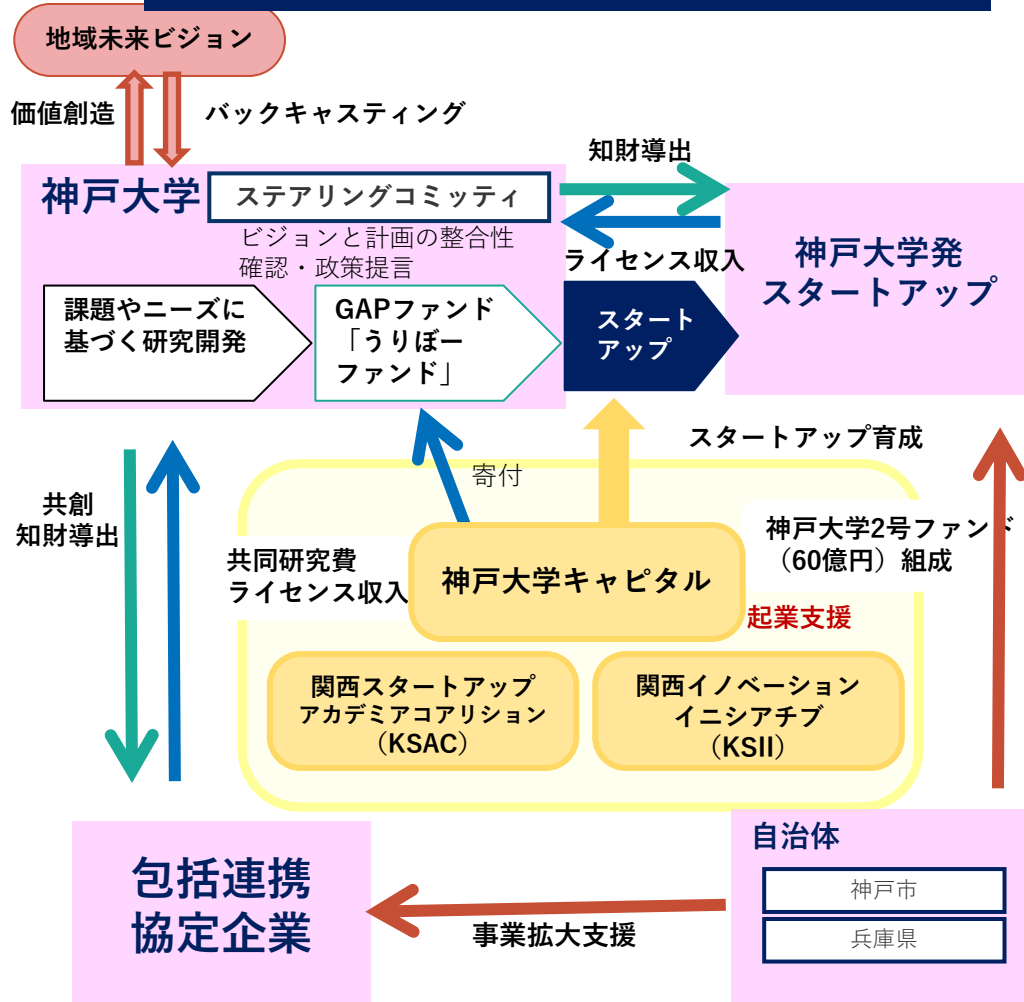
シーズの発掘 → シーズの育成 → スタートアップ → アクセラレーション



AMED 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
NEDO 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
STA 公益財団法人 ひょうご科学技術協会
KANSAI STARTUP ECOSYSTEM
イノベ J-Innovation HUB
経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry
内閣府 Cabinet Office
Kansai Innovation Initiative 関西イノベーションイニシアティブ
文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN
科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency
BRI 公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構
NIRO 公益財団法人 新産業創造研究機構
Life-Tech KOBE KOBE STARTUP ECOSYSTEM
U ecosys Hyogo SDGs Open innovation



神戸大学産官学金コンソーシアム



イノベーションを生み出す実践的アプローチ

①イノベーションデザインによる価値創造

- 地域課題や潜在的ニーズを捉え、バックキャスティング
- 事業化戦略・知財戦略・研究計画を一体的に策定

②ステアリングコミッティの活用

- 進捗状況をモニタリングし、地域未来社会ビジョンとの整合性を確認
- 関係者間の連携を促進し、地方自治体の政策立案、実行に対する提言

イノベーション・エコシステムの形成

③神戸大学産官学金コンソーシアム

- 地域のリソースを集結し、スタートアップの創出と成長、裾野の拡大を支える基盤として2022年発足
- 地域産業の活性化に貢献する持続的エコシステムを構築

④スタートアップ育成

- スタートアップのステージに合わせ、大学独自の「うりぼーファンド」やKASC、KSII等のファンドを活用
- 民間出資100%の神戸大学1号ファンド22億円、神戸大学2号ファンド60億円（組成中）を活用

⑤自治体・企業との連携強化

- 神戸大学は、ダイセル、東洋紡、川崎重工業、ノーリツ、エイチ・ツー・オー・リテイリング、カネカを始めとする22社と神戸市、兵庫県、姫路市、三田市、明石市を始めとする12自治体と包括連携協定を締結済

アントレプレナーシップのDNA育成のための仕組みづくり ～ 起業に向けたプログラム拡充と機運醸成を図る～



- ✓ アントレ教育の体系化により、教職員にも開かれた起業啓蒙と実践学習の機会を提供。
- ✓ 起業志向の研究開発シーズの裾野拡大のための学内GAPファンドのメニューを拡充。
- ✓ 技術シーズを社会実装に導くプログラム提供により、起業に向けた機運醸成を図る。
 - 教職員や学生全てに開かれたコンテストやアクセラレーターを開催。

